

# 月刊 やちまなこ

2016.3.15 発行

No. 220

## 3 月号

釧路湿原国立公園 塘路湖エコミュージアムセンター（あるこっと）だより



### 湿原散歩

太陽の光が降り注ぐ湿原に鳥たちのさえずりが聞こえ、ワカサギ釣りで賑わっていた塘路湖の水辺にはオオハクチョウが長旅を控え、羽を休めている。近くの雪原では繁殖のため湿原に渡って来たアオサギの姿も見られた。まだ雪の降る日もあるが、水音の聞える湿原も徐々に目覚めはじめてきたようだ。



## コッタロ川と湿原のほとりから

### 189 3月のコッタロ湿原便り

コッタロ在住・中本 アキ子(文) 中本 民三(写真)

“幕開きは暴風雪の弥生哉”。数年に一度の爆弾低気圧による激烈な荒天で気圧が急速に下がった(38ヘクトパスカルも)途端、体調に変化をもたらし、えも云われぬ不調でゆめも希望も破れそうな三月の始まりは、かつてない体験でした。

ところがコッタロの常で“一夜明け悪夢のあとの雪景色”には“浄らかな於母影残す猛吹雪”にうつり。又6日の大雨から急激な気温の上昇で一気に雪解けも進み、日課の川歩きをしておりますと“立ち騒ぐ泡さえ白き雪解川”や“じょう舌な水音楽し雪解川”が見下ろせる昨今です。さらに河畔林を見渡せば、咲きはじめての柳の花がキラキラと目に飛び込んできて、晴天をたたえているではありませんか。2月10日と12日に各々子別れ完了した丹頂双番も交尾のかたわら、湿原の奥で各々の壱で巣抱え真最中。時折、庭池の餌場にきてボーとしている様は“神妙な春夕焼けの夫婦鶴”と云った風情。そろそろ産卵間近の彼等は“残雪の湿原(やち)に丹頂営巣す”。

一方、山から湿原から集まってくる野鳥のレストランに、ひとときわ甲高い声の持ち主数羽が飛来し、餌台めがけてまっしぐら。色鮮やかな翼を大きく広げたカケスのドアップをパチリ！

ところで、温暖化もここまできたか、と思われるのは、この十年余り-30℃以下を体験することがなくなったばかりでなく、今季の最低気温-24℃も3回しかありません。何しろ、オホーツクに接岸した流氷初日が平年より20日、昨年より34日も遅かったと云う記録もうなづけるでしょう。



## 湿原の住人たち その180

## イタヤカエデ

イタヤカエデの樹液が話題に上る時期になりました。アイヌ語で「とペニ（乳汁の出る木）」や「とペンニ（あまい木）」と呼ばれ、古くから、早春に樹幹に傷をつけて樹液を採り、そのまま飲んだり、煮詰めて飴にしたりして利用されてきました。実際に水のような樹液を舐めてみると、甘いものもあれば渋みのあるものもあり、木によって味が違うのが、当たりはずれのように面白いです。花が咲くまであと二ヶ月ほどかかりますが、雪解けとともに見えない所で、芽吹きを始める準備をしているのです。枝先に茂った葉が板で葺いた屋根のように雨を防ぐことから板屋楓となったそうです。



## スノーシューで散策を楽しみました

5日、自然ふれあい行事「釧路湿原フィールドウォッチング」を茅沼にある蝶の森で開催しました。先月29日の吹雪により、吹き溜まりが極端に多い箇所があり、スノーシューを履き、足慣らしを兼ね、当センター指導員の佐藤がガイドをしながら、散策しました。しばらくすると雪上にはエゾシカの足の骨や、キタキツネと思われる毛の塊などがあり、周辺の木を見ると、特にハルニレの樹皮がエゾシカにより食べられた痕や、空洞となった木が雪の重さにより三方に割れて崩れたもの（写真）に参加者も驚いていました。また、縄文時代の竪穴住居跡や昭和初期に使っていたと思われる、炭窯跡なども観察しました。今回の観察会ではオオワシが着地した場所があり、翼の跡が残っていたので、幅を測ったら、2メートルを越し、これまた参加者もびっくりポンでした。行事終了後、参加者は「憩の家」の温泉に浸かり汗を流しました。



## つぼっちの今回はうろうろしていない日記 Vol.86「郷土館のジオラマ」

標茶町郷土館の2階には、「塘路の自然」と題した長さ9m×奥行き2.5mのジオラマがあります。塘路周辺をイメージした湖沼から森林にかけて生息する哺乳類と動物のはく製42種68点が展示され、自然展示室の目玉となっています。このジオラマは、郷土館開館当初の昭和46年に作られました。中に置かれているのはく製たちもジオラマ完成と共に展示された資料が多く、古いのはく製が多く含まれています。

標茶町郷土館は平成28年度秋以降に、耐震に伴う工事を予定しています。工事が始まると作業の関係上、ジオラマを撤去しなければなりません。工事終了後にジオラマを元通りに復元するのは難しく、別な形の展示となる予定です。古い博物館によく見られるジオラマ。今年の秋までは展示されていますので、是非ご見学ください。

坪岡 始(標茶町郷土館学芸員)





## 4月の行事カレンダー

各行事とも事前の申込が必要です

## 春のバードウォッチング

[日時] 4/23 (土) 10:00~12:00

[定員・参加料] 15名・無料

〔持ち物〕 あれば双眼鏡、フィールド状況によっては長靴。手袋、帽子など気温に応じた服装。

〔集合場所〕 憩の家かや沼駐車場

\*講師の解説を聞きながら野鳥観察をします。初めての方もお気軽にご参加ください。

[illegible]

**早春の湿原ハイク** [日時] 4/10 (日) 10:00~12:00

[illegible]

## 塘路湖・シラルトロ湖・コッタロ湿原周辺の自然情報

【植物】(3/4)サワシバのタネ、ハリギリのタネ、葉痕（ヤチハンノキ、キハダ、オニグルミ、ノリウツギ、イヌエンジュなど）(3/11)銀白色のヤナギの芽

【鳥】(2/16) オオハクチョウ (2/23) ダイサギ、マガモ、オジロワシ、オオワシ (2/26) ミソサザイ、ワタリガラス  
(3/3) ヤマセミ、マヒワ (3/5) ヒシクイ 6羽 (今季初確認) キバシリ、アカゲラ、(シマ) エナガ、ノスリ、ミコアイサ (3/9) 塘路湖上に佇むアオサギの群れ (3/11) タンチョウ、ホオジロガモ、ヒヨドリ

【その他】(2/23)エゾヤチネズミ (2/26)エゾタヌキ (3/11)鳥獣保護区で採食中のエゾシカの群れ、キタキツネ

- 湿原周辺はエゾシカの通り道が多く、日没と夜明け前後に道路への飛び出しが多くなります。国道 391 号線 塘路～茅沼間では、湖や丘陵地からの飛び出しにもご注意ください。
- 双眼鏡の無料貸出をしています。あるこっと周辺ではカラ類のさえずりが聞こえるようになりました。北帰行の途中で羽を休めるオオハクチョウやオオワシ、オジロワシを湖畔歩道から探してみませんか？雪解けの散策路は長靴がオススメです。

◆日出・日入時間 3/15(5:35, 17:29). 3/31(5:06, 17:48). 4/14(4:42, 18:04)



伝説の二本松 (3/11)

釧路湿原国立公園

塘路湖エコミュージアムセンター あるこつと

☎088-2264 北海道川上郡標茶町塘路原野

TEL:015-487-3003 FAX:015-487-3004

E-mail: [emc@hokkai.or.jp](mailto:emc@hokkai.or.jp)

開館時間 10:00～16:00 (4月～10月は17:00まで)

休館日：毎週水曜日 12月29日～1月3日 入館無料